

平成30年度 事業報告

少子高齢化の進展が経済成長の構造的ネックとなっている一方で、健康寿命が世界一であることから人生100年時代の到来や一億総活躍社会の実現が叫ばれ、元気で意欲のある「アクティブシニア」への期待が益々高まっております。

平成30年度におきましては、地域貢献事業の一環として当センターが指定管理者となっている「かが交流プラザさくら」の利用者は、前年度比7割増、7万6千人余の実績がありました。また、当館内で運営する健康づくり応援の店「レストランさくら」は、1日平均約60人、年間1万7千人の来客があり、地域の賑わいづくりに貢献できました。

シルバー事業実績につきましては、経済・雇用状況が引き続き堅調だったことから活発な求人依頼を受けながら、要望に十分応えることができず、概ね前年度並みは維持できましたが、第三次中期計画の目標値は達成できませんでした。

最重要課題である会員数増強については、入会者数100人に満たず87人に減少しましたが、退会者数73人とどまり、結果的には会員総数843人と年度末会員数では過去最多となりました。しかし、中期計画目標値865人及び全国シルバー人材センター事業協会が示す会員「100万人達成計画」の目標値861人にも遠く及びませんでした。また、女性会員割合が39%台に再び落ち込み低迷しております。年齢構成では60歳代前半層が定年制延長などから5年前の1/5と激減し、その分75歳以上が30%を超え、高齢化が一層進んでいる現状から全シ協では80歳以上会員の就労対策を求めてきており、平均年齢が73歳を超え、高齢化が進む中で、会員数を如何に目標値に近づけられるか、会員確保対策の見直しが迫られております。

契約額については3億7千1百万円と前年度約240万円(0.6%)減と会員不足から求人依頼に応えられなかったことが結果に表れたと思われます。

深刻な労働力不足から、派遣就業に限り週20時間から30時間へ就業時間拡大につきましては、31年度へ持ち越しとなりましたが発注者及び就業意欲がある会員にとってプラスの効果をもたらすものと思われます。

安全就業につきましては、過去の痛ましい死亡事故を教訓に安全就業基準の見直し、遵守徹底化を図った結果、傷害事故は半減したものの賠償事故が倍増しております。

人口減少、労働力不足から地域経済への支え手として、また地域コミュニティの絆・つなぎ手としてシルバー人材センターへの期待が高まる一方です。

今年度も、地域ニーズに応える幅広い取組みに十分成果はありましたが、その分経費が嵩み、当センター財務は厳しく、事務費率見直しなど財政改善策を講じました。

今後も、地域の皆さまに愛され、信頼されるシルバー人材センターとして躍進を図るためには、共に働き、助け合う多くの会員と役職員の一致協力が不可欠です。

平成30年度事業実績詳細については、次のとおり報告いたします。

1. 会員の登録状況

| 区分 | 平成30年度 | 平成29年度 | 差 引 |
|----|--------|--------|------|
| 男 | 512 人 | 495 人 | 17 人 |
| 女 | 331 人 | 334 人 | △3 人 |
| 計 | 843 人 | 829 人 | 14 人 |

| 会員の平均年齢（歳） | | | 会員の最高年齢（歳） | |
|------------|------|------|------------|-----|
| 男 性 | 女 性 | 全 体 | 男 性 | 女 性 |
| 73.1 | 72.9 | 73.0 | 90 | 88 |

（単位：人）

| 項 目 | 年度当初 | 入 会 員 数 | 退 会 員 数 | 年度末 | 退 会 理 由 | | | | |
|-----|-------|------------|------------|-------|---------|-----|-----|-----|-----|
| 性 別 | 会 員 数 | | | 会 員 数 | 就 職 | 病 気 | 死 亡 | 加 齢 | その他 |
| 男 | 495 | 52 | 35 | 512 | 3 | 13 | 5 | 4 | 10 |
| 女 | 334 | 35 | 38 | 331 | 6 | 13 | 1 | 4 | 14 |
| 計 | 829 | 87 | 73 | 843 | 9 | 26 | 6 | 8 | 24 |

2. 事業の実績

| 項 目 | | 平成30年度 | 平成29年度 | 前年度のとの比較 | |
|------------------|--------|---------------|---------------|--------------|-------|
| 会員数 | | 843 人 | 829 人 | 14 人 | 1.7% |
| | 男性 | 512 人 | 495 人 | 17 人 | 3.4% |
| | 女性 | 331 人 | 334 人 | △3 人 | △0.9% |
| 就業率 | | 82.1 % | 87.6 % | △6 % | |
| 就業延人日計 | | 85,582 人日 | 87,144 人日 | △1,562 人日 | △1.8% |
| 請 負 事 業 | 就業延人日計 | 60,419 人日 | 61,794 人日 | △1,375 人日 | △2.2% |
| | 受託件数 | 4,864 件 | 5,142 件 | △278 件 | △5.4% |
| | 契約金額 | 258,480,107 円 | 257,681,663 円 | 798,444 円 | 0.3% |
| | 配分金 | 234,625,855 円 | 232,750,589 円 | 1,875,266 円 | 0.8% |
| | 材料費 | 10,182,853 円 | 11,180,422 円 | △997,569 円 | △8.9% |
| | 事務費 | 13,671,399 円 | 13,750,652 円 | △79,253 円 | △0.6% |
| 派 遣 事 業 | 就業延人日数 | 25,163 人日 | 25,350 人日 | △187 人日 | △0.7% |
| | 受託件数 | 787 件 | 797 件 | △10 件 | △1.3% |
| | 契約金額 | 112,021,495 円 | 115,219,816 円 | △3,198,321 円 | △2.8% |
| | 賃金 | 102,253,969 円 | 105,043,455 円 | △2,789,486 円 | △2.7% |
| | 手数料 | 9,767,526 円 | 10,176,361 円 | △408,835 円 | △4.0% |
| 契約金額合計 | | 370,501,602 円 | 372,901,479 円 | △2,399,877 円 | △0.6% |

(再掲)

○ 元気市事業の実績 (内訳)

① 大聖寺元気市 (H.30.4.21~H.30.12.15 毎週土曜日 8:00~10:00)

| 区 分 | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 |
|---------------|-----------|-----------|
| 収 入 金 額 (円) | 1,601,470 | 1,975,469 |
| 就 業 実 人 員 (人) | 15 | 16 |
| 就業延日人数 (人) | 316 | 337 |

② 片山津元気市 (H.30.4.22~H.30.12.9 毎週日曜日 7:30~10:00)

| 区 分 | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 |
|---------------|----------|-----------|
| 収 入 金 額 (円) | 993,750 | 1,377,960 |
| 就 業 実 人 員 (人) | 14 | 19 |
| 就業延日人数 (人) | 222 | 301 |

③ 普及啓発事業 4/15 9/8~9 10/20~21 9/24

| 区 分 | 加賀温泉郷 マラソン大会 | 十万石まつり | 大聖寺文化 の祭典 | エコフェスタ |
|---------------|-----------------|---------|--------------|--------|
| 収 入 金 額 (円) | 230,601 | 128,430 | 236,100 | — |
| 就 業 実 人 員 (人) | 28 | 13 | 15 | — |
| 就業延日人数 (人) | 28 | 21 | 26 | — |

内容 ・ 元気市 (野菜・加工食品販売)・うどん・餅・コーヒー

○ 地域就業機会創出・拡大事業 (レストランさくら)

| 区 分 | 平成 30 年度 | 平成 29 年度 |
|-------------|------------|------------|
| 収 入 金 額 (円) | 9,525,405 | 2,230,650 |
| 国・市補助金 (円) | 1,000,000 | 2,300,000 |
| 費用 (経費) (円) | 12,326,749 | 7,626,125 |
| 収 支 (円) | △1,801,344 | △3,095,475 |
| 利用者人数 (人) | 17,008 | 3,594 |
| 備 考 | 年間営業 | 4 か月営業 |

3. 地域貢献の推進

- ・ 2年目を迎えた「加賀交流プラザさくら」は、駐車場の便利さや使用料金が基本無料で利用者に有利なことが浸透したことで通常の会議やイベント開催などで、年間利用者は、前年度比 70%増の約 7 万 5 千 6 百人を数えました。また、レストランさくらは 1 日約 60 人、年間実績 1 万 7 千人と予想以上の集客がありました。
- ・ 3 年目となった加賀市委託事業「介護予防・日常生活支援総合事業」は、会員が高齢から 9 名となりながらも利用者 23 名と前年度実績を維持しました。

- ・ ボランティア活動は、春・秋年2回実施し、延べ198名の参加があり、雨天中止もあり参加率18%と年々減少傾向を辿っております。

4. 第3次中期計画の推進

- ・ 当計画も最終年度となりましたが、景況が継続し、人手不足からハローワーク加賀月報では有効求人倍率が2.4倍となっており、求人依頼が増加したものの会員数が伸びないことから、就業率、契約額全てが目標値に及びませんでした。
- ・ 会員の確保については、今後も定年制延長や再雇用制度の浸透そして人手不足から好条件の就業先が増えたこと厳しい状況続いております。会員の皆さんの口コミ勧誘を進めるため、会員紹介の報奨制度を導入し周知に取り組んでおります。

5. 安全就業の推進

- ・ 会員の高齢化が進むとともに剪定後継会員の入会もままならず、地球温暖化による異常気象など、会員の健康や傷害事故のリスク要因が増える中、再発防止・事故根絶を目指し、安全就業推進員や安全・適正就業委員による就業先の安全パトロールを強化したことで、件数は減少したものの傷害事故2件と賠償事故6件発生しております。
- ・ 石川県シルバー人材センター連合会が開催する安全就業を推進するために設置された衛生委員会に出席し、当センターの取組みを積極的に紹介するとともに他センターの安全就業対策も取り入れました。

6. 適正就業の推進

- ・ 公益法人として法令順守の立場から、不適正な就業をなくするよう明白な違反業務について発注者に契約変更を依頼し切り替えに努めました。また、派遣就業での週20時間・月80時間就労遵守にも努めました。
- ・ 更に、労働力不足を補うための就業時間緩和措置に対応し、派遣の就業会員・発注者の意向を反映すべく週30時間就業への申請書を提出しました。
- ・ 増加する運転就業会員確保のため、70歳定年を72歳まで延伸する適正就業要綱の改正を行いました。

7. 組織の強化

- ・ 時代に的確に対応したセンターの円滑な事業運営に、理事会・各委員会の活性化や事務局体制の強化が不可欠なことから関係機関との連携強化と情報交換に努めました。
- ・ 役員が見識を広め、事業運営に生かすため、滋賀県守山市シルバー人材センターの視察を実施しました。
- ・ また、職員研修においても、北信越シルバー職員研修会参加や、増加する派遣業務に対応するため、派遣元責任者講習を受講し、オールラウンドプレイヤーを目標に能力アップに努めております。
- ・ 特に、シルバーワークプラザ事務所移転後、新規事業取組みのため、加賀市との情報交

換、協議、要望等連携強化に取り組んでおります。

- ・ 職員のお客様や会員への接遇向上には、お客様満足度調査回答や地区懇談会での会員意見を真摯に受け止め、愛されるシルバーへの取組みを進めております。